お客様導入事例　東日本電信電話株式会社 様

Hinemos

DX推進に大きく貢献
「Hinemos WinActor管理機能」を用いて WinActor利用状況の可視化を実現

働き方改革・業務効率化を進めていくなか、RPA利用の推進・拡大において見えてきた管理課題。WinActor利用実態を把握するために活用したHinemos WinActor管理機能。導入の決め手となったものは何でしょうか。東日本電信電話株式会社様に伺いました。

Client
東日本電信電話株式会社
デジタル革新本部
鈴木　康弘 様

Hinemos導入の決め手

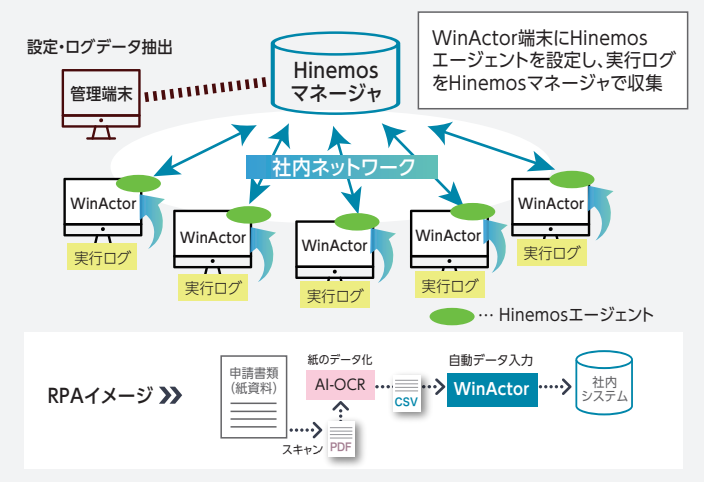
NTT東日本では、DXの推進に取り組む中、業務標準化とあわせてRPAを活用した施策を進めており、現状としては社内ネットワーク上の数千規模の端末で「WinActor」を利用しています。

しかし、個々のWinActorの利用状況が把握できず**RPAに関わる各種取り組みの実態が適正に把握できないという課題**がありました。そこで、WinActorの利用状況を可視化する仕組みを確立するため、今回Hinemos WinActor管理機能を活用しました。

導入の決め手となった点は、WinActorの利用状況の把握に必須となる汎用的なログ情報の収集・管理機能を備えていた点はもちろん、個々のWinActorを適切に管理するために、Hinemosエージェントの識別子をWinActorの識別子として活用できるなど、様々な状況に柔軟に対応する機能をHinemosが具備していた点などが挙げられます。

【Hinemos】 複数のコンピュータを単一のコンピュータのイメージで運用管理することを実現するソフトウェア。各種ITシステムの状態監視や運用自動化といった、統合運用管理を実現。

【Hinemos WinActor管理機能】 WinActor導入環境を含めた、ITシステム全体の統合管理を実現する機能。



技術的な工夫

WinActor利用状況の可視化を実現するにあたり、最も重要な要件は**WinActorの利用状況をその利用者単位で把握すること**でした。NTT東日本では、WinActor動作端末で動作するHinemosエージェントの識別子(facilityId)にユーザアカウントを設定することで、その仕組みを実現しました。あわせて、Hinemosエージェントの設定には、設定用スクリプトを準備し、利用者が簡易に設定できる環境を整えました。設定用スクリプトには、スクリプトの実行ログを共有サーバに記録する仕組みを入れることで、Hinemosエージェントの導入状況把握もあわせて実現しました。

こうした技術的な工夫を組合せた上でHinemosを導入することにより、WinActorの「シナリオ名」「シナリオ稼働時間」等の情報を**ユーザアカウント単位で収集するための仕組みを構築するとともに、これらの情報をすべての利用者について集計、整理することでWinActor利用状況の可視化が可能**となりました。

導入後のメリット

① **Hinemosによる画一的な管理が可能。**
WinActorが随時バージョンアップされることにより、複数バージョンのWinActorが社内ネットワークに混在することになるが、そうした環境においても同様の仕組みによりWinActorの利用状況を把握することが可能。

② **WinActorの利用者単位での状況把握を実現。**

③ Hinemosエンタープライズ機能に付随する「Hinemos Utility」を利用することにより、**管理対象の一括登録等、効率的な操作が可能。**

今後の取り組み

NTT東日本では、今回構築したWinActor利用状況の可視化の仕組みを活用することで、RPAの取り組み施策単位での状況把握による施策推進やWinActor利用形態の最適化についても取り組む考えです。

【お問い合わせ】
NTTデータ先端技術株式会社　ソフトウェアソリューション事業本部 ソフトウェア基盤事業部 Hinemos担当
〒104-0052 東京中央区月島1-15-7 パシフィックマークス月島7F URL:https://www.hinemos.info

NTT DATA
NTTデータ 先端技術株式会社

Copyright ©2021 NTT DATA INTELLILINK Corporation.